



九州体育・保健体育ネットワーク研究会 「体操フォーラム in 鹿児島」



日本体操学会第11回学術研究集会との合同開催 H28.3.26(土) 鹿児島市勤労者交流センター

「動いて学ぶ、学んで動く」を基本理念とする日本体操学会と、「教育の『今』を知れば、未来はもっと見えてくる」をスローガンとする九州体育・保健体育ネットワーク研究会のコラボレーションにより、「体操フォーラム in 鹿児島」が開催されました。全国各地から約60名が集まり、体操や体づくり運動の喫緊の課題に、どう取り組んでいけばよいか、ともに動きながら考え学び、交流を深めました。この研修の様子については後日、日本体操学会ホームページにも掲載される予定だそうです。楽しみです！

1 ワークショップⅠ

「体づくり運動『体のバランスをとる運動』の実践」 講師：新潟大学 檜皮 貴子 先生

「ICTを活用した体づくり運動の実際」 講師：鹿屋体育大学 佐藤 豊 先生



第1部では、2つの会場に分かれて、体づくり運動についてのワークショップが行われました。

新潟大学 檜皮 貴子先生による、「体のバランスをとる運動の実際」では、体を動かす楽しさや心地よさを味わいながら、バランス運動に取り組むことを通して、子供たちの「身のこなし」が身に付く実践例を紹介していただきました。けがの防止の観点においても、アンバランスな状況に対応する動作、身のこなしが大切であることを小学校での実践事例を交えて紹介していただきました。また紹介していただいた「新聞キャッチ」やペアで行うバランス運動遊びなどは、すぐに授業に活かせる内容でした。心地よい汗をいっぱいかきました。



鹿屋体育大学 佐藤 豊先生による、「ICTを活用した体づくり運動の実際」では、タブレット端末を使用し、「体づくり運動学習アプリ」による演習を行っていただきました。アプリを活用することで、生徒自身が、自分の目的に合った運動の計画を簡単に作成することができ、活動意欲の向上や運動の効果に関する知識の定着、さらには運動の組み合わせ方に関する理解が深まるというアプリのよさを実感することができました。体づくり運動の授業づくりの在り方について、体を動かし実際に操作し体験することを通して、深く考えることができました。



2 ワークショップⅡ

「“自分をつくる運動遊び”と“やる気スイッチ”について考える」 講師：日本遊育研究所 瀬戸口 清文 先生

「安全に配慮した力強い動きや組立体操」 講師：北海道教育大学 古川 善夫 先生

日本体育大学 三宅 良輔 先生

第2部では、幼児期の運動遊び、そして安全に配慮した組立体操と、今、多くの関心を集める2つの内容についてのワークショップが行われました。

日本遊育研究所 瀬戸口 清文先生からは、子供にとって「生きる力」を育む運動遊びの例を紹介していただきました。子供たちが夢中・集中し、進んで活動できることが、「自分をつくる運動遊び」であり、「生きる力」を育むことにつながっていくのではないかと、また、子供たちの達成感や有能感、自信・安心を生み、「やる気スイッチ」をオンにするということ、そのための言葉かけが大事であることを教えていただきました。子供たちが大好きな楽しい運動遊びの事例を紹介していただいたのですが、参加者みんな笑顔いっぱい、童心に返って、楽しく体を動かしました。



北海道教育大学 古川 善夫先生、日本体育大学 三宅 良輔先生からは、安全で安心な組立体操のための指導のポイントについて、実技を通して教えていただきました。まずは子供たち自身が、自分の体をよく知ること、力の入れ方や仲間の支え方などは、互いの体の感覚を感じながら学んでいくこと、そして、組立体操については、量的な達成目標を一律に決めるのではなく、自分が内容を選ぶ（思考・判断）、互いに支え合い、交流しながら活動することの大切さを味わえるようにする（態度）など、体育で身に付けるべき力が身に付くような内容が含まれるように教材をつくっていくことが必要でないかと、今後の取組につながる示唆を与えていただきました。

3 参加者からの声

- 組体操について、保護者からの要望も学校に数多くあり、対応に迷っていた。研修の中で学んだ安心・安全な指導のポイントを学校での実践に取り入れていきたい。
- 実際に体を動かし、仲間とともに学べる研修内容で、充実した研修となった。このような「参加型」の研修が今後もあれば、積極的に参加したい。
- 多様な視点から、体づくり運動の授業づくりについて考えることができた。いろんな立場の方の研究や実践を教えていただけるのは、学びが深まってよいと思う。

【報告：清田】

